

第一分科会中間報告

優先的課題

○ 女性が暮らしやすくなる空間へと転換する「象徴」として、特にトイレを中心に取り上げることとし、国民からの提案募集の結果に対応する形で、次のとおり優先的課題を設定している。

- ・ 女性用トイレの行列解消
- ・ トイレの快適性・清潔性・安全性
- ・ 災害時のトイレ確保
- ・ 男性用トイレにおむつ替えスペース
- ・ 授乳スペースの確保
- ・ ベビーカーの利用しやすい環境
- ・ トイレ・授乳室の情報提供（ベビーカーマークの普及等）
- ・ トイレに関する好事例・表彰

各回の概要

○ 第1回（1月29日）

【議題】

- ・ 今後の進め方（優先的課題等）

【主な委員の意見】

- ・ ICTを活用し、トイレの場所や口コミ等を発信できれば便利ではないか。例えば、「トイレなび」といった形で、コメントや評価も含め、個々のトイレの情報が提供できないか。
- ・ トイレ空間だけではなく、環境配慮等の様々な部門賞を設け、トイレの表彰を行ってはどうか。
- ・ 防犯上の観点から、交番の存在を活かせないか。
- ・ 日本のアピールのショーウィンドウ化にトイレを加えてはどうか。安心・安全で清潔なトイレ、かつ「驚く」ようなトイレを世界にアピールしていくべき。

○第2回（2月3日）

【議題】 関係省庁、有識者からのヒアリング等

- ①国土交通省（総合政策局安心生活政策課）からのヒアリング
 - ・バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方に基づく施策等
- ②小林純子氏（設計事務所ゴンドラ代表）からのヒアリング【別添1】
 - ・公共トイレの役割や改善に向けた動き、今後の課題等

【主な委員の意見】

- ・既に根付いている文化や考え方を変えるのは非常に難しい。ユニバーサルデザインが辿ってきた道と同様に、トイレに対する考え方も、表彰等を通じて機運の醸成を進めていくことが現実的。
- ・トイレの設置個数は、設置主体が個別の利用実態に応じて定めるのが適当。
- ・商業施設など、トイレが収益に結び付きやすい施設はよいが、公園のトイレや公衆トイレは改修や維持管理のインセンティブに乏しい。
- ・学校のトイレが綺麗になれば、トイレを利用してもからかわれることがなくなり、いじめ防止にもつながるのではないか。

○第3回（2月26日）

【議題】 関係団体からのヒアリング

- ①日本トイレ協会からのヒアリング
 - ・文化としてのトイレ（トイレの歴史等）、トイレの好事例等
- ②学校のトイレ研究会からのヒアリング
 - ・学校のトイレ改修の好事例、工夫、効能等
- ③インターリンク株式会社からのヒアリング【別添2】
 - ・授乳室・オムツ替えスペースの検索マップアプリ「ベビ★マ」

【主な委員の意見】

- ・女性の社会進出が進んでいるにもかかわらず、建設現場等ではトイレが汚い場合が多い。質の高い仮設トイレの開発・普及を進めるべき。

- ・排泄を考えることへの心理的抵抗を、空間面(改修等)と教育面(排泄教育)の両面から解消していくことの重要性を実感。
- ・授乳室やオムツ替えスペースと同様、トイレは集客に貢献する施設であり、質の高いトイレの情報と広告を組み合わせればビジネスモデルになり得る。

○第4回(3月4日)

【議題】関係団体からのヒアリング

①NPOぐんまからのヒアリング

- ・「ぐんまビジタートイレ」の取組の概要、成果、今後の課題等

②日本公園緑地協会からのヒアリング

- ・公園のトイレの関係規程、特性、課題、好事例等

③日本トイレ研究所からのヒアリング【別添3】

- ・学校のトイレや災害時のトイレに係る取組、マナー向上に向けた取組等

【主な委員の意見】

- ・地域の公衆トイレを大切に維持管理し、日々清掃を続ける地域住民の方に、表彰等を通じてもっと光を当てていくべき。
- ・観光やおもてなしは、トイレを考える上でキーワードになるのではないか。
- ・不要なトイレは撤去し、残ったトイレに重点的に維持管理費を投入するという考え方があっていいのではないか。
- ・トイレに広告枠を設けてスポンサーを募り、そのスポンサー料で改修や維持管理費を賄う仕組みを検討できないか。
- ・国際的なイベントの際に、日本のトイレに世界の注目を集めることも検討していくべきではないか。

○第5回(3月12日)

【議題】関係省庁、有識者からのヒアリング

①小瀬博之東洋大学教授からのヒアリング

- ・トイレの設置個数の算定方法、トイレの利用方法・評価アンケート等

②外務省、JICAからのヒアリング【別添4】

- ・ODAによる途上国のトイレ支援

【主な委員の意見】

- ・途上国の女性が野外排泄による性暴力の危険にさらされていることがよく分かった。日本としても積極的に支援を進めていく必要があると思う。
- ・相手国の状況に応じたアプローチが大切。インフラが未整備の地域に温水洗浄便座を支援しても意味がない。
- ・都市部で下水道の整備を支援することも大事だが、農村部では、江戸時代の日本のように、循環型のトイレの普及を進める方がよいのではないか。
- ・経済的な支援のほか、技術的な支援（循環型トイレ）や文化的な支援（衛生習慣）もあり得るのではないか。